

土佐清水市地域公共交通協議会 第1回総会 会議録（要約）

日 時：平成22年6月9日（火）午前10：30～11：25

場 所：土佐清水市役所 第1会議室

出席委員：杉村土佐清水市長、鈴木あしずりハイヤー代表取締役社長、田村足摺交通ハイヤー代表取締役社長、西村竜串見残観光ハイヤー代表取締役、小松高知西南交通代表取締役社長、近澤高知県幡多土木事務所土佐清水事務所長、木下土佐清水市まちづくり対策課長、北岡清水警察署長(代理吉村交通課長)、角田土佐清水市連合区長会長、佐伯国土交通省四国運輸局高知運輸支局首席運輸企画専門官、笹岡高知県幡多土木事務所土佐清水事務所工務課長、山本土佐清水市観光協会長(代理横山事務局長)、脇谷土佐清水市企画広報室長、山田土佐清水市観光課長、山下土佐清水市水産商工課長(代理速川補佐)、二宮土佐清水市福祉事務所長、酒井土佐清水市学校教育課長、岡高知県地域づくり支援課支援員、計18名

事務局：岡田企画広報室長補佐、金子企画係長、計2名

1. 開会

2. 市長（会長）挨拶

3. 議事

○平成22年度協議会役員選出

事務局より引き続き副会長に小松高知西南交通代表取締役社長、監査に近澤高知県幡多土木事務所土佐清水事務所長と角田土佐清水市連合区長会長を提案し承認された。

○委員・事務局自己紹介

（1）平成21年度事業実施状況等について

事務局より配布資料に基づき①平成21年度事業実績、②平成21年度会計報告説明し、角田監査委員より③監査報告を行い一括質疑とした。

（酒井） 事業費に対して、1人あたりの単価はどうなるのか？

（脇谷） 311名の利用に対して、全体で2800万の事業費がなっている。全体でいくと92,700円、直接事業費では69,000円位。費用対効果でいうと非常に高いものになっている……。

（議長） その他なければ承認いただけますか。

（委員） 了承。

（2）平成22年度事業計画等について

事務局より配布資料に基づき①平成22年度事業計画(案)、②平成22年度収支予算(案)について説明

（佐伯） 実績みてあまりにも乗っていないのにびっくりした。3カ年の事業になるが、どういう工夫をしているのかと思いましたが、あまりにも実績が少ない。これでは、たぶん22年度と同じ結果になるのではないかということが予想されるが。

（脇谷） 周遊バスは龍馬伝の活用を見込んでいる。

帰宅便は住民アンケートでも要望が強かった部分である。今年度は3ヶ月経ち、市としてもノーカーデーを実施しているが利用者は少ない。利用者の少なさからして、非常に継続は厳しいのではと思っている。ずっと続けるという思いはない。やめる判断も必要で、その時期のみきわめをする必要がある。

最新情報として、本事業が事業仕分けで廃止されるということが決まったという情報がある。今年度でうちはやめざるをえない。どのタイミングでやめるか、やめるのなら利用者への周知も必要になってくる。

単独事業については、交通空白地域の高齢者などの交通弱者に対するタクシーの割引事業を実施するが、こういうものが、国の補助の対象にならないということであるので、交通空白地域をどうするのか、本市の課題になるだろうと企画広報室でははなしている。費用対効果は難しい。

- (佐伯) 活性化事業をやめる？
- (脇谷) 22年度8割カットできている。やめざるをえない。
- (佐伯) 需要が多く応募が多い。配分が減ったということ。21年度の評価をして実績をみて、四国4県で実績、とりくみをみて、予算を配分していると聞いている。
- (脇谷) 実績、ヒアリングをみてこういようになっているということは聞いている。西南地域の協議会でこの事業は23年度廃止という最新情報もらった。他の支援策を考えるということになっているか、非常に状況は厳しい。
ただ、帰宅便については、まだ3ヶ月しかたってないので、続けるかどうか状況を見てみないとわからない。
- (佐伯) アンケートでは希望があるのに乗客数は少ないと。
- (脇谷) アンケートもあてにならないのかなと。しかしアンケートをとらないと、実証運行ができない。
- (角田) 重複するところもあるかもしれないが、高齢者の運転免許返納支援は市内の事業所が対象であると思うが、返納している人もけんみん病院へいっている。バスで通院をしている人への支援を幡多地域・県と合わせて支援を考えてもらったらと思う。
- (小松) 西南交通で返納サポート定期券を発行している。格安定期で幡多管内乗り放題で、もちろんけんみん病院へもいける。返納から3年間の期間限定としたが、22年度より永久に継続できるようにした。
西南地域公共交通協議会の取り組みとして、100円刻み運賃や、定期券の75%引きをやっている。
- (角田) 返納者支援だけでなく、高齢者全般に何か支援がないものか。明日、幡多地区の区長会があるので、意見の交換のうちに、清水の話もしたかったので聞いてみた。
- (小松) 清水市は行政、商店街、地域が一緒になって積極的に取り組んでいる。返納者が多いのはそういう取り組みが強いからだと思う。
- (事務局) 広報に2回掲載している。今年度から理髪店が加入してくれたので、その周知と併せて載せている。
- (小松) 高齢者、学生取り組みとしては、幹線と同じような条件を取り入れてもらっている。100円刻み運賃これは端数を切り捨てて通常より10%割安になっている。また端数がないので、小銭を探したり、両替をする手間が省けるので車内事故がなくなっている。昨年10月1日から初めたが以降事故なし。
定期券の75%引き。清水では小学生が2人、高校生2名増えている。発券枚数で去年の10月から今年の5月までで103枚増えている。今年にはいって198名売れている。発売額は300万で50万円ほど少ないが、金額的には75%なので金額が落ちているが、枚数は増えているので、一定効果があったのではないかとと思う。この75%引き定期を、通院につかってももらったらと思う。月に5回以上行く人はお得になるのでぜひ利用してもらいたい。
サポート定期は年間定期を1人買ってくれている。全路線が使えるので、格安で利用できる。
パルの待合所の関係はサービスの低下となってはいけないということで、時間帯で待合い所を賃貸で借りている。今までは人をおいてあいている時間が8時から6時になっていたが、今回は7時40分にあけて19時30分まで無人だが中に入って待てるという状況になっている。パルで回数券も買えるようになっている。夏は8時まであいているので便利にはなっている。
回数券は、貝の川から三崎あたりで売ってくれないかとの意見あり、三崎の山本さんところで販売をしている。
サポーターズクラブのポイントシールについて、パルの中でもシールがはれるような状態にはなっている。
- (議長) そのほか、ご意見ないか。
- (二宮) フィーダー輸送について実績はわかったが、費用対効果はなかなかだと思うが、地域の人たちの声をどう反映させてこのようにしたのかの経過を説明してほしい。
- (脇谷) 実験的に、実証的にやっという事業なのでいろんな手法を考えていこう。といことで、タクシーを借りてやろうということで実施したが、事業費が非常にかかる。
家路川線についても、まったく利用がなくそれでもお金を払う必要がある。利用があるところもあるので、この事業が終わった時にどのようなやり方でやっていった方がいいかを考える必要がある。声は聞いている。
フィーダー輸送については利用しにくいという意見がある。平成22年度については、そういう声を反映させたものになっている。そうすると、国の補助対象にならない。市の単独事業になる。試験的な事業が終わった後、結びつけて行く必要がある、大切なことであると考えている。点でなく線にしていく

必要がある。フィーダー輸送については今後続けられるかどうかはわからない。

バス停から、病院まで歩かないといけない。高齢者の方にとっては、近いところから降りたいということがあがる。運転手さんの判断になる場合もある。高齢者は足が悪くなるべく近くまで行きたいという意見があって、それを試してみようという思いでやっている。病院まで行く分について、助成が必要という意見になればまたそれを考えていく必要はあるのではないかと思う。

(議長) あくまで、これは実証運行で、どのやり方が一番よいのかということを考える必要がある。

(事務局) 西南交通より、土佐くろからの接続について本市の周遊バスにつなげることができないかということで、小松社長より説明をお願いします。

(小松) 周遊バスについて中村駅を朝一番で到着する特急に併せて、サテライト館に合わせた観光を合わせた周遊観光バスにしたらどうか。1泊をしたあとこちらへの集客を計りたい。協賛をしてもらうところ、龍馬伝、高知ははずせない。それを西の方へ向けさせるようにするにはどうするかということでの提案である。

(角田) この事業で横道に車が通るようになったのはうれしいことだ。

要望だが小さいバスでもいいが、費用対効果の問題もあるけど、シャトルバスのようなことも考えてもらいたい。

(議長) その他なければ承認いただけるか。

(委員) 了承。

(3) 平成22年協議会委員について
事務局より説明、了承

(4) その他
特になし

4. 閉会